

# ばってん

事務長会報第47号

令和2年3月31日

長崎県公立学校事務長会  
長崎県立長崎北高等学校内

〒851-1132

長崎市小江原1-1-1

電話 (095)884-4411

## 『ぼちぼちいこか』

副会長 (ろう学校) 井村 義昭

昨年12月中旬頃に2本の電話がありました。電話主はT事務長さんとM事務長さんからでした。ついに、とうとう、この私に出番が回ってきたのかと。あの「ばってん」への寄稿依頼です。昨年4月に、副会長に拜命され重責を感じているところですが、過去の事例を見ても副会長をされた諸先輩方も寄稿されており避けては通れない定めと観念いたしました。

私が勤務している長崎県立ろう学校は聴覚に障害を持つ子ども達が通っている特別支援学校で、奇しくも私が学校事務職員として採用されたときの初任校になり、今回2回目の勤務となります(ちなみにこれまでに2回勤務した職場は、ろう学校を含め4つの職場を経験しました)。ご存知のとおり、ろう学校は九州新幹線西九州ルート(長崎新幹線)の新大村駅(仮称)に伴う周辺整備事業により平成30年4月に大村市植松から同市宮小路の虹の原特別支援学校さんのお隣へ新築移転し業務を開始しました。移転については、4月から新校舎で業務を始めることとなりますので、引越し業者の入札・契約、新規購入物品業者の入札・契約、廃棄物品の契約事務など膨大な作業がありました。何とか乗り切れてほっとしています。ただ、一番忙しい時期に私事で1か月ほど休んでしまい、関係教職員、特に事務室の皆さんには大変ご迷惑をお掛けしました。感謝!・感謝!です。

新校舎は、管理棟・教室棟・寄宿舍棟(食堂含む)・特別教室棟・体育館からなり、管理棟・教室棟・寄宿舍棟(食堂含む)は木造2階建てで木のぬくもりがあり、湿気があるときもほとんど結露がない校舎です。また、聴覚障害をサポートするために、教室や執務室や廊下には非常時やチャイムを知らせるシグナル表示灯、火災や行事等のお知らせをモニターで表示する“みらいスクールステーション”システムなども整備されています。食堂は日課の関係で給食時間の違いがありますが、幼稚部から高等部専攻科の子ども達が一同に会食できるスペースが確保されています。私は給食を食堂で食べているのですが、可能な限り幼稚部の

子ども達のところに相席しています。私が「失礼します。ここに座っていいですか?」と尋ねたら、Sちゃんが「どうぞ」って言って、幼児用の椅子を引いてくれます。将来、孫ができるかわかりませんが、おじいちゃん気分楽しく給食を食べています。どうも子ども達は私を事務長ではなく、給食のおじいちゃん(おじいちゃん?)と思っているようです(笑)。是非、まだ、新しいうちに学校見学にお越しください。

ところで、表題の『ぼちぼちいこか』とは絵本の題名になります。私の子どもが小さいときによく読み聞かせていた絵本です。主人公のカバくんが消防士やパイロットなどいろいろな職業にチャレンジするのですが失敗に次ぐ失敗。でも、カバくんは懲りずにチャレンジを繰り返しますが、また失敗します。でも、焦らずこう言うのです「まあしゃあない。ぼちぼちいこか」と。人生はいろいろ上手いかわないこともあります。焦らず慌てず、あまり考えすぎず心に余裕を持つことも大事なことです。

今、私たちは働き方改革の中、会計年度任用職員制度・障害者雇用・すいすいスクールネットワーク整備事業など新しい制度や事業への取り組みに加え、安全安心な学校施設設備の整備・学校運営への参画・人材育成・会計監査対応など様々なことを限られた時間、限られた予算、限られた人数の中で進めていかなければなりません。でも、今年(2020年)は、東京オリンピック・パラリンピックの年でもあります。チケットを獲得されて観戦に行かれる方もおられるのではないのでしょうか? 私はTV観戦します。そのためにも、新型コロナウイルスが収束に向かっていることを願っています。

皆さん、たまにはガス抜きも必要です。そうです「ぼちぼちいこか」で頑張りましょう。



## 「事務職員人生を振り返って…」 —縁は異なるもの—

大村工業高等学校 原田 和幸

文章を書くことが大の苦手な、広報部に在籍していたことをいいことに、逃れていた「ばってん」への寄稿も、「とうとう」年貢を修めなければならなくなりました。私もこの3月で定年ですので、この「ばってん」が配付されるときはその場にはいないことを良いことに、つたない文を寄稿させて貰います。

思い起こせば昭和59年4月1日(日)、自家用車に布団などの必要最低限の生活用品を詰め込んで(荷物は、当初下宿でしたので、台所用品は必要なく、こたつとテレビと布団ぐらいでした。)、初任校である壱岐郡郷ノ浦町立初山小学校の教頭先生を助手席に乗せ、呼子目指して出発したのが、私の事務職員としての出発でした。そのうち、同級生が同じ事務職員になっていることが判明しました。長崎北校12回生の1年10組で机を並べて学んでいた、山崎事務長さん(退職時長崎西)と馬場事務長さん(退職時西陵)のお二人です。三人とも高校卒業後の進路も

違い、採用年度も異なりますから、一緒に事務職員になろうと話したわけでもなく同じ事務職員になっていたのですから、ほんと縁は異なるもの。さらに、山崎事務長さんとは幼稚園が一緒であり、馬場事務長さんとは小学校5・6年同じクラス、中学校3年同じクラスと、どちらも「幼なじみ」でもありましたからなおさらでした。

こんな三人でしたが、平成6年頃小中学校勤務から高校勤務となり、事務職員協会会員として、または事務長协会会员として、お互い切磋琢磨してきました。(こう思っているのは私だけかもしれませんが・・・)

こんな腐れ縁の三人の関係は多分これからも続いて行くだろうし、続けていきたいと思っています。(他の二人は迷惑かもしれませんが・・・)

何処でどのような縁が繋がっているか判りません。ほんと「縁は異なるもの」です。この縁によって繋がった人たちに助けられて、どうにか退職を迎えられたことを感謝しています。いろいろ御世話になりました。ありがとうございます。今後も皆さんと出会えた縁を大切にしていきたいと思います。



## 感謝に始まり感謝に終わる

長崎西高等学校 山崎 健二



高校時代、私の弁当箱を入れる手作りの袋には「感謝」の刺繍が縫い付けられました。これは私の母が、当時反抗期まったただ中で、様々な物事に対して「感謝」の気持ちを示さない息子に対する戒めの言葉だったと思います。

学校事務職員に採用されて37年間、そのゴールを迎えるにあたり、胸中に湧き出てくる言葉は、数十年前の弁当箱にあった「感謝」です。佐世保市の中学校事務職員として採用され、義務制13年間、県立学校24年間、合計13校で勤務しました。初任の中学校では、卒業式前の3月に放火による学校火災、それも連続2回!2回目の放火にあう前夜、最後に学校を出たのが私だったため、地元警

察署で刑事さんに囲まれ、生まれて初めての事情聴取も受けました。2校目の壱岐市中学校(当時芦辺町)では生徒の集団結核感染!。勤務を始めた最初の2校で、在職中最大の事件!に遭遇することとなり波乱の幕開け(勤務開始)でした。その後特別支援学校、実業高校、総合学科高校、普通高校…、それぞれの学校で、何とか自分の責務を果たす事ができた要因はただ一つ、自分の周りにはいる同僚や仲間の存在でした。義務制から県立学校へ移動し、暗中模索だった私を優しく導いてくれた先輩、農業高校において施設改修に携わり、工事関係業務のノウハウを事細かに教えてくれた仲間たち、事務長としての責任の重さを共に理解し一緒に悩んでくれた同級生のH事務長さんやB事務長さんなどなど。自分一人では決して乗り越えられない壁も数多くありましたが、周りにはいる皆さんのおかげで学校事務職員という仕事を最後まで続けることができました。37年間共に学校で勤務して頂いた皆様、事務職員協会や事務長会でお世話になった皆様、そして何よりいつも温かい目で見守ってくれた家族に「感謝」の言葉を伝えたいと思っています。ありがとうございました。

## 「城とパトライトと春」

島原商業高等学校 中尾 洋子

平成31年3月、島原商業高校に異動と聞いて、まず頭に浮かんだのは島原城と温泉だけでした。観光地としてのイメージしか無い島原に、事務職員歴30年を超えていても私は不安になりました。その後、初任

地の対馬は行ったこともなく誰ひとり知り合いがいない土地だったことを思い起こしました。30年を経て、新事務長として新たな土地で新たなスタートを切ることとなったのです。

異動の引継ぎで初めて島原商業高校を訪問することになり、松尾せい子事務長さんに、「お堀端から学校に入る目印はありますか」とお尋ねしたところ、「赤いパトライトがあります。」と言われました。「パトラ

イトってあの回転する？」と内心思いながら走行していくと本当に有りました。それも正門を挟んで2個。無事に到着することができました。

あの日のお堀端の桜は満開で、その向こうに島原城がキリッと城下を見下ろしていました。城下町という歴史的な土地柄からか、時の流れがとても緩やかに感じられました。早いものであれからもう一年が過ぎようとしていて島原商業高校にもまた春がやって来ます。しかし、この平成から令和への一年はあっという間に過ぎ去り、あの日感じた緩やかな時の流れはいついどこへ行ったのかと思われて、私は毎日焦りを感じて

いるところでした。

新任事務長として、研修部を含む事務長会の先輩方には大変お世話になりました。そして、中地区、特に島原地区事務長会の皆様には、無我夢中だったこの一年の中でいろいろと助けていただいていたことがありました。本当にありがとうございます。



## 初めての県立学校

壱岐商業高等学校 佐々木 隆



本校は、昭和24年4月に県立壱岐高等学校定時制勝本分校として認可され、生徒数40名からスタートしております。昭和26年には現在地に校舎が竣工され、以降、長い歴史と多くの実績を重ね、今年度、創立70周年を迎えました。記念式典を開催するにあたりましては、多くの皆様にお世話になりました。心から感謝申し上げます。

さて、私は、平成7年に勝本町立霞翠小学校に勤務して以来、2度目の壱岐になります。壱岐は、テニス、バトミントン、釣り、ウィンドサーフィン、カラオケ、パチ○○、麻○など、夜遅くまで遊興に耽り、人生を謳歌した地です。

約20年ぶりに赴任するにあたり、今回、単身赴任という自由を手にして、意気揚々として壱岐に乗り込んできました。しかし、初めて勤務する県立学校は、知らないことばかりで戸惑いの毎日が続き、勝本町にある本校の職員住宅に帰った後は、疲労困憊して「華の郷ノ浦町」へ行くどころではありませんでした。

このような中、同じ商業高校や多くの事例を持つ学校に勤務される方、これまでにお世話になった方、初対面の方もなど、片っ端から電話をかけ、学校事務に精通した諸先輩方に教えを請いながら、何とか現在まで勤務させていただいています。最近、やっと、パチ○○屋さんから以前の貯金を引き出す機会もできました。本当にありがとうございます。

今後も、事務長会をとおして、学校運営や事務、制度について、問題点や課題などの意見を交わさせていただき、本県の教育活動に少しでも寄与できるよう頑張っていきたいと思っています。これからもどうぞよろしく願います。

## 『昔も今も』

宇久高等学校 安部 良邦

平成最後の年に宇久高校に新任事務長として赴任した。宇久島は島民2,000人足らずの小さな島だ。高校生は全部で20人しかいない(写真は1年生の教室)。赴任して初めの仕事は生徒全員の顔と名前を覚えることだった。他の事務長さん方が、赴任した学校で職員を覚えるのが大変との話を聞くと、申し訳ない気持ちになった。

宇久島は本当に小さな島だ。コンビニも本屋もない。インターネット回線は未だにADSLだ。困ったことにauの電波は繋がらなくなる日が年に数回ある。通信障害が起きてもメンテ要員がいないのか、すぐには復旧しない。新聞は長崎新聞が昼過ぎに届く。全国紙に至っては翌日だ。業者の多くも島内におらず島外から呼ぶ。見積もりも補修も気軽には頼めない。だが、不思議と何とかなっている。そう考えていて、ふと気付いた。昔はこれが当たり前ではなかったか?

採用された頃、世はまだ20世紀だったが、24時間コン

ビニも携帯電話もなかった。インターネットなんて言葉も知らなかった。パソコンは学校に数台あるだけで、伝票も帳簿も手作業で処理していた。旅費は時刻表を見るものだったし、購入物品はカタログで調べるものだった。FAXやコピー機はあったが、基本、文書のやり取りは郵便でするし、複写にカーボン紙も使っていた。

あの頃、21世紀はもっと良くなると思っていた。確かに世の中は便利にはなった。ある意味、想像以上かもしれない。でも、楽になった実感がないのはなぜだろうか?逆に仕事は大変になった気さえる。ITも流通も革新的に発達したはずなのに・・・。

でも、宇久島は豊かな自然と人情あふれる島だ。地域の人々は、小学生も中学生も高校生も、顔と名前を知っている。宇久島の子どもとして見守ってくれている。昔も今も、そしてこれからも、きっとこれは変わらない、宝の島だ。



# ブキョクの人

県教育庁 総務課長 中尾 美恵子

業界用語や略語は、いろんな分野にあるもので、質問するのもはばかられ、なんとなく流しているうちに意味が分かってくるという感じではなからうかと思えます。

知事部局から教育庁への出向当初（時折今も）、一瞬、脳内で意味が繋がらなかった（長崎県の）教育委員会での常識用語・略語は数多くあります。新採の頃、電話メモがほとんど“ひらがな”だったり、例えば「起債」を「記載」と書いたことなどを思い起こし、新鮮な気持ちになったものです。初心にかえる貴重な機会ともなりました。

最初の「？」を覚えていることばをいくつかあげてみます。

【しっかい】 悉皆。統計調査では一般的な用語なのでしょうが。

【さきた】 佐北=佐世保北高。五島出身の私の脳内では、話の内容から地名？いや学校だ、と理解していきました。

【イケア】 医ケア=医療的ケア。医療用語でしょうか。スウェーデンの「IKEA」ではないだろうことはさすがに分かりました。

このほかいわゆる教育用語、人事関係の用語の「？」は数知れず。そして、表題の「ブキョク」。首長（知事）部局のことを指すと理解はできるのですが、私の脳内では、カタカナの「ブキョク」で浮かんできます。そうか、私は「ブキョク」の人とカテゴライズされるのだ、と。

「ブキョク」の人から見た教育委員会、学校は、明確な「矜持」がある世界です。教壇に立つ先生だけではなく皆さんが“教育（学校）はこうあるべき”と語る理想を持ち、校長先生が掲げる学校経営方針の実現に努める。教育庁では他の課室の業務にも詳しい人が多い。自分の専門性に自信がもてない「ブキョク」の事務屋である私からするとまぶしくさえあります。純粋であり、真面目。半面、誤解を恐れずに言えば、柔軟性に欠けるところがあるような。経験主義、前例踏襲に陥りやすいと言われるコームインの世界の中でも、もしかしたら、より排他性が強く、硬直化の危険性は高いのかもしれない。

私自身は底意地が悪い性格なので、色んなことを疑ってかかります。それが良いとは言えませんが、「予測不可能な時代」の学校経営、事務をつかさどっていくためには、これまでの常識を疑うことも大切だと考えます。もちろん、

疑うだけではなく、どう変えていくべきか、の発想や行動力も求められることは言うまでもありません。

「ブキョク」には、一分野の専門性を有するこれほど大きな集団はありません。教育委員会の貴重な財産であるこの専門集団をリードし、学校現場はもちろん、教育委員会全体を担う事務職員を育てていくことは、皆さんの力によるところが大きいと思います。

会計年度任用職員制度への移行、障害者雇用の推進、GIGA スクール構想への対応、そして、働き方改革等々。次々と難しい課題が——という向きもあろうかと思いますが、様々な「仕組み」を変えること、変わることは大きなエネルギーが必要です。学校でも教育庁でも、一人一人が専門性を活かし、広い視野で教育界全体をみる「鳥の目」、複眼的に足元を見つめ直す「虫の目」、世の中の流れ、変化を見失わない「魚（うお）の目」をもって、教育行政を担っていかなければならないのではないのでしょうか。

そして「ブキョク」の人である私には、もう一つ、存在意義としても必要であろう「コウモリの目」。教育委員会、学校の組織や仕組み、考え方、教育制度などへの理解を深めながらも、最初のちょっとした違和感を忘れずに、“異質な存在”として逆さまの視点を持ちつづけ、考え、伝えることが務めでもあり、そうあらねば。というようなことを思いながら日々の仕事にむかっています。

子どもの頃の「作文」は抵抗なく書いていたのに、大人になると頭（心）の中を見られているようで、恥ずかしいものです。それに耐えての投稿でしたが、校正中、異動内示があり「ブキョク」へ異動することに。結果として、皆様への感謝の気持を伝える良い機会となりました。

ありがとうございました。



本文とは、関係ありませんが、日本オリンピックミュージアム前で。（左が本人）

幻のオリンピック・パラリンピックとならないことを願うばかりです。

## 編集後記

中国武漢市で発生した新型コロナウイルスによる肺炎が大流行しています。その影響で県立学校は長い休業に入りました。児童生徒のいない学校は寂しいものです。

さて、本年度でご勇退される皆様、長年、本県教育のためにご尽力いただきありがとうございます

いました。皆様の次のステージでのご活躍をお祈りいたします。

また、中尾総務課長様には大変ご多用な中に、快くお引き受けいただき心から感謝申し上げます。

(S・M)